

日本語の疊語名詞の意味機能

ハリム ヤヤン スヤナ

0. はじめに

言語というものはコミュニケーション手段としてとても大事なものである。なぜならば、言語を通して人間は考えや感情を伝えることができるからだ。言語を通して、人と人は影響を与えたり、影響を受けることができる。要するに、人間の生活文明にはなくてはならないものである。言語には音韻、文法、語彙などいろいろな言語要素がある。その言語要素の中でも文法と語彙の両部門にかかわる疊語について以下にまとめていきたい。

1. 重複の現象について

言語諸要素を重複させて新たな言語単位を形成することは、“Reduplication”、“Reduplikation”、“Redoublement”、“重疊”などと称され、多くの言語に見られることがらである。重複される要素見ると、

音素	ラテン語 totus > イタリア語 tutto (すべて) の -t-
音節	フランス語 mere (母) > memere (おかあちゃん) の -me-
語根	ひそひそ ほのぼの
語	インドネシア語 orang (人) > orang-orang (人々)
句	知らず知らず

など多種多様である。

さて、日本語の中でこのような重複現象は疊語と言い、自立語の各品詞にわたって見られる。

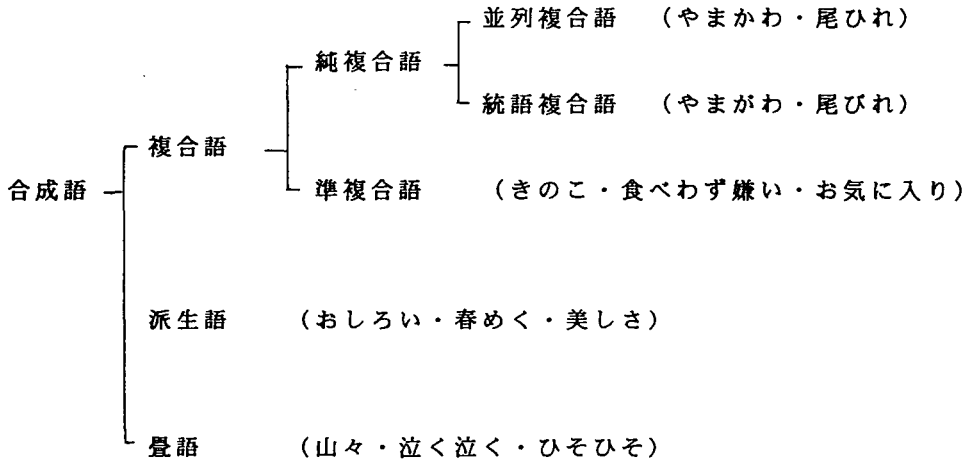
ア.	家々の窓の明かり	名詞
イ.	我々には関係ない	代名詞
ウ.	若々しい	形容詞
エ.	火はみるみる拡がった	動詞 {見る}
オ.	堂々と入場する	形詞
カ.	まだまだ若い	副詞
キ.	やれやれ助かった	感動詞
ク.	そもそも事の起こりは	接続詞

本論では、この中でも特に疊語名詞について考察を進めていくことにする。疊語名詞が文中でどのような機能を持っているか、接辞とどんな関係があるか、そして疊語名詞に

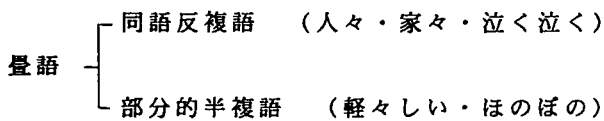
(2)

こういった意味を含まれるか明らかにしたいと思う。

合成語における疊語の位置付けについては、玉村（1988）に次のような分類がある。



従って単語の構成という観点からみれば、疊語は次のように二つに分けることができる。



2. 日本語における名詞

日本語の品詞には体言と言うものがある。これは単語の中で、自立語で活用がなく主語になるものである。したがって、名詞、代名詞、数詞が体言ということになる。

2. 1 名詞

品詞名の一つ。意味のうえから「事物の名を表わすもの」と規定されることが多いが、文法的な特徴としては、いわゆる自立語であること、活用がないこと、主語になり得ること、などで体言の場合と全く変わりがない。

例 : 人、島、林、道 など。

2. 2 代名詞

自立語で活用がなく単独で主語になり得るという点で、名詞に近い性格を持つ。

2. 2. 1 人称代名詞 : わたくし、ぼく、かれ、われ など。
 2. 2. 2 指示代名詞 : これ、それ、この、その、あの など。

2. 3 数詞

数詞は「人や事物の数量または数による順序を表わす語」。

2. 3. 1 数量数詞 : 一つ、二人、三日、四本、語匹 など。
 2. 3. 2 順序数詞 : 第一、第二章、三つめ、四番、語級 など。
 2. 3. 3 部分数詞 : 二分の一、三分の二 など。

3. 疊語の定義

疊語については、国語大辞典では次のように記述されている。

「同一の単語を重ねて一語とした複合語。語の意味を強めたり、事物の複数・動作・状態の反復・継続を示したりする」。

上の定義を見ると、日本語の疊語は同じ単語、語根が結合した語であることが明らかにされている。人々（ひとびと）、山々（やまやま）、国々（くにぐに）などが疊語と言えよう。しかし、馬場（ばば）、町長（ちょうちょう）、売買（ばいばい）など同じ発音の繰り返しであっても疊語とは言えない。

拍数という観点から見れば、疊語名詞は次のような三つに分けることができる。

- ア. 一拍名詞の疊語 : きぎ（木木）、ひび（日日）、まま（間間）など。
 イ. 二拍名詞の疊語 : はなばな（花花）、むらむら（村村）、しまじま（島島）。
 ウ. 三拍名詞の疊語 : ひとりひとり、ひとつひとつ など。

4. 文中での疊語名詞の機能

文中では日本語の疊語名詞は次のように機能になることができる。

4. 1 主語としての用法をもつもの

単語で主語になれるものは名詞、代名詞であるから、疊語でも疊語名詞、疊語代名詞に限られる。

- ア. 公園の木々が烈しく風に揺れている
 イ. 海辺の家々が見える。
 ウ. 新しい家に引越す人々は、古い家財を家の中に残し．．．．．

(4)

4. 2 主語、修飾語の両方の用法をもつもの

主語になることができるものであるから当然、名詞、代名詞に限られる。名詞に副詞的用法があるように、疊語名詞にも副詞的用法がある。

- ア. 彼の言う一々が気に入らない。
- イ. いちいち構ってられない。
- ウ. めいめいが反対を唱えた。
- エ. めいめい好きな所へ座りなさい。
- オ. おのおのが持っている力を全部出す。
- カ. 人にはおのおの良い所も悪い所もある。
- キ. 悪事の数々が露見する。
- ク. 問題は数々ある。

数詞には副詞的用法があるが、疊語の場合も同様で、対になっている例の上段が名詞下段が副詞的用法である。

疊語代名詞は主語として用いられるとともに修飾語としても用いられる。

- ア. われわれは学生です。
- イ. 必要なのはこれこれです。
- ウ. 机、椅子などがそれぞれちょうどいい所にある。
- エ. 欲しいのはどれどれですか。
- オ. 来たのは誰々ですか。

4. 3 修飾語だけの用法をもつもの

疊語名詞のうち主語にならず修飾語にだけなるもの以下にあげる。

- ア. 人々は口々に叫んだ。
- イ. 人々は声々にののしった。

もとの名詞の「口」や「声」は主語になるが、疊語になると助詞「に」を伴って修飾語としてだけもちられる。

疊語名詞のうち、時間や順序に関係するものは副詞、あるいは副詞的に用いられることが多い。

- ウ. 時々、お母さんに会いに来るからと言ったんですけど。
- エ. 月々金を送る。
- オ. 年々赤字がふえる。
- カ. 代々続いた家柄。
- キ. 手をあげさせて順々に同じことを聞いてみた。
- ク. 内々に事を運ぶ。

5. 疊語と接辞

文法的数の欠如を補うものとしては、疊語の他に次のような接辞がある。

接尾辞 一 「がた」「たち」「ども」「ら」

接頭辞 一 「諸」

ここでは、疊語と接尾辞、接頭辞との間に見られる出現環境の違いをしてみる。

5. 1 接尾辞と疊語

接尾辞と疊語の異なる点については、田村(1991)明らかにされている。

- (1) 疊語が±animate に用いることができるのに対して、接尾辞は基本的には+humanのもと共に用いられる。但し、比喩的な意味で次のように言うことはできる。

ア. かわいいお人形さんたちですね。

イ. 小鳥たちが歌っている。

- (2) 固有名詞を疊語にすることはできないが、接尾辞「たち」「ら」は固有名詞と共に共起することができる。

ウ. 田中さんたちはどこへ行きましたか。

エ. 知子らはどこへ行った。

- (3) 疊語には生産性がないが、接尾辞にはある程度みとめられる。これは、語彙的に固定したものを疊語と認定していることによる。但し、(1)に挙げたように接尾辞にも共起する名詞類に制限がある。

- (4) 疊語は特定の数を表わす数詞と共に用いることはできないが、接尾辞の中には数詞と共に共起することができるものがある。

オ. ※ここに3人の人々がいる。

カ. 彼には3人の息子たちがいる。

キ. 3人のがきどもがやって来た。

5. 2 接頭辞と疊語

接頭辞「諸」の付された名詞句には次のようなものがある。

「諸君」「諸国」「諸種」「諸問題」「諸人」「諸子」「諸公」「諸所」「諸島」「諸般」「諸方」「諸事」「諸相」「諸母」「諸生」etc.

上記以外にも用例はあるであろうが、生産性という点で、疊語ほどではないにしろかなり乏しい。また、-animateにも用いることができるという点が、「諸」と疊語の共通点である。

両者の間の違いについては、國廣(1980)に述べられているように次の2点にまとめられる。

(6)

(1) 接頭辞「諸」が付された名詞句は特定、不特定を問わず数量詞と共に用いることができない。

ク. ※多くの諸問題。

ケ. ※3つの諸問題。

「問題」が1つしかない場合に「諸問題」とは決して言わないことから分かるように、「諸」は明らかに複数性に関与しているが、特定・不特定を問わず数量詞と共に起しないことは、これが「集合体」指示機能を強く持っているためであると思われる。〈個別性〉を含意する疊語に対して、「諸」は〈集合性〉を含意していると言える。

(2) 「諸」が漢語としか結びつかないのに対して、疊語が複数性に関与する場合、語幹はほとんどの場合和語に限られる。

コ. a. 言語教育の諸問題を論じる。

b. ※言語教育の問題問題を論じる。

サ. a. ※森の諸木。

b. 森の木木。

6. 日本語の疊語名詞の意味機能

調べたデータによると日本語の疊語名詞は次のような意味機能を持っている。

個別指示 / each / every (毎〇〇, 各〇〇, 〇〇ごと)

- 年々観光客が増えてきた。
- 日々純化していくような不満。
- ヨーロッパの国々では失業率が高い。
- かれは、月々7万円で暮らしている。
- 日々の挨拶
- めいめいすきな所へすわりなさい。
- 人にはおのおの良い所も悪い所もある。
- 月々100人くらいあのところに出て来る。

複数性 (from two up) (2つ以上の〇〇)

- 天国を信ずる人々と信じない人々。

- 近隣の人々もきてもらった。
- 東南アジアにある国々。
- 一方、別の国々では宗教は迫害に瀕し、あるいはほとんど禁止される。
- われわれが学生です。
- われわれは成長、進化、出現といった概念でものを考え、果てしない空間、時間という観念に慣れている。
- 神、神々、神的なもの。
- 空の星々が光っている。
- 公園の木々が烈しく風に揺れている。
- 海辺の家々が見える。

上の例文を見ると、複数性には多数指示 (many) の意味が含まれる。そこで複数指示か、多数指示か確定できないという場合も少なくない。

順序 (order)

- 一人一人質問した。
- ひとつひとつ戸棚の中に皿をおいている。

順序の意味を含む疊語形が数詞しかない。しかも、一人一人の例のように、個人を中心に考えているばあいである。また、

- 二人二人部屋に入るでは、「二人ずつ」が使われる。

強調 (emphasize)

- 体の節々が痛い。
- まだ隅々がきれいになっていない。
- 頁の端々がまくれ上がっている。

「節々」「隅々」「端々」は全体の中の一地点を指示する「節」「隅」「端」を疊語にしたもので、複数の意が拡大されて、部分の全体を表すようになり強調している。

愛称 (pet name)

- お手々つないで。
- 蝶々、蝶々、菜の葉にとまれ。

単純な名詞の意味に、疊語形式をとり入れることによって、上記のようなさまざまなニュアンスを加え、日本語の表現生活を豊かにしている。

(8)

結論

- 疊語化された名詞の中には、副詞化されたものや、名詞なのか副詞なのか特定できないことが多くある。
- 疊語の意味を確定するためには、文全体を見るのが必要である。文全体によって、ある疊語形がひとつ以上の意味機能を持つ可能性がある。例：
 - － 全世界の国々（多数指示）（many）
 - － ASEANの国々（複数指示）（from 2 up）また、
 - － ヨーロッパの国々では失業率が高い。
ここで「各国」の意味だけではなく、「いくつかの国々」といった不特定多数の意味もある。単語レベルでの「国々」では、どちらの意味かを確定することはできない。疊語の研究は文法と語彙の両部門にまたがるものである。

参考文献

- 1・玉村文郎 “古代における和語名詞の疊語について” 「論集日本語研究（II）歴史編」 明治書院 1986、pp. 220-238
- 2・田村泰男 “現代日本語における疊語について” -数概念からみた疊語- 広島大学留学生センター紀要 第一号 1991・3月・25日
- 3・原野亮子 “疊語について” 九州大学留学生教育センター紀要、第一号 1989、pp. 91-103
- 4・町 博光 “南島方言の副詞の造語法” -疊語形式語の強調心理- 『琉球方言論叢』1987・11月、pp. 543-553
- 5・m. d. s Simatupang “Reduplikasi Morfemis Bahasa Indonesia” Penerbit Djambatan Jakarta 1983